

氏名	三 谷 英 信
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1995 号
学位授与の日付	平成12年3月25日
学位授与の要件	医学研究科外科系外科学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	EFFECTIVE ARTERIAL ELASTANCE(Ea) OF IRREGULAR BEATS DURING ATRIAL FIBRILLATION IN CANINE LEFT VENTRICLE (心房細動不整脈下イヌ左心室の実効動脈エラストランス (Ea))
論文審査委員	教授 大江 透 教授 辻 孝夫 教授 松井 秀樹

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

実効動脈エラストランス (Ea) は、左心室の収縮期末圧と1回拍出量の比と定義されており、収縮の指標である E_{max} と Ea を組み合わせた Ea/E_{max} は、正常心および心不全心の整脈時の左心室-動脈の整合性を分析する上で有効である。しかし、左心室の E_{max} や前負荷、後負荷が大きく変化する不整脈下での Ea については今まであまりよく知られていなかった。そこで不整脈下の Ea を心拍出に対する実効後負荷エラストランスと仮定し、開胸イヌ心房細動下不整脈中の、1心拍毎の Ea の解析を行った。その結果から、Ea は心房細動中でも1心拍毎にみれば、心室駆出に対する実効後負荷エラストランスとなり、また、 Ea/E_{max} は1心拍毎の心室-動脈の整合性の指標となりうることなどがわかった。本論文は Ea 並びに Ea/E_{max} などの不整脈に伴う変動の特徴が初めて明らかにされた興味ある論文である。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、開胸犬を用いて心房細動中の左室実効動脈エラストランス (Ea) の解析を行った実験研究であり、心房細動の心拍変動に伴って起こる Ea 並びに収縮性の指標である E_{max} を組み合わせた Ea/E_{max} の特徴を明らかにした論文である。この研究は、従来行われていなかった不整脈時の実効動脈エラストランスについて重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。